

人権啓発センター だより

平成28年6月

No.30



雑感

熊本地震で、亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方にお見舞い申し上げます。震度7という激しい地震から1ヶ月で1400回をこえる余震が発生しており活発な地震活動が続いています。最初の地震で持ちこたえた家屋も、耐震性が損なわれて、次の震度7の揺れにより、倒壊したものが多くのこと。避難生活を送るなかで、エコノミークラス症候群などの2次災害や子どものストレスの問題など発生しています。

地震予知はできないという学者もいて、東海地震など地震の発生が高いと予測されている地域で地震

が起こっていないという指摘や南海地震との関連性についても、あり、なし諸説があります。

南海トラフ地震で想定される被災地域の広大さや、高知県の道路状況などを考えると、できる対策はしておくといった発想が必要です。

非常用の水や食料の備蓄、家具の固定をはじめとする耐震対策、更に町内会を始め地域の連携の強化など、まずはできることから進めましょう。

(企画啓発課 池本)



人権あれこれ

「災害時における人権について考える」

4月14日の夜から熊本県で、震度7や6強という大きな地震が続けて発生し、甚大な被害が出ています。熊本県や大分県では、現在も余震が続き安心して生活できない状況が続いています。

このような災害が発生した時、高齢者や障がい者、女性や子どもなどいわゆる「災害弱者」と言われる人々たちへの人権侵害が問題になっています。東日本大震災においても、被災地全体の死者のうち、高齢者の占める割合は60%、障がいのある人の死亡率は被災住民全体の約2倍となっていますし、女性や子どもへの暴力、原子力発電所の事故による風評被害も問題になりました。

今回も新聞を見ていると、多くの人権に関わる報道がなされています。4月16日、高知新聞や朝日新聞では、「ネットデマ拡散」のことが取り上げられていました。これは、インターネット上に「朝鮮人が井戸に毒を投げ入れた」と関東大震災の際の模



倣と思われるデマや「動物園からライオンが逃げた」などのデマが書き込まれたという悪質なものです。4月18日や19日の毎日新聞では、「障害者休まず」「避難所生活 命の危機 持病抱える高齢者悲鳴」という見出しで病气や障がいのある方、高齢者が避難所生活で多くの困難を感じていることが書かれていました。また、4月25日付同紙では「肩身狭い子ども連れ『騒ぐと迷惑』避難所外シート張り」という見出しの記事もありました。

災害時には、社会不安からさまざまな差別や人権侵害が起こりやすくなります。避難所運営などにおいても、人権の視点に立ったさまざまな配慮が必要になってきます。どのような状況におかれても、誰もが安心して過ごせる人権の確立された地域社会にするために、日頃からの取り組みが重要であることを今回改めて考えさせられました。

(研修講師 藤本)



じんけんライブラリー

一押し本

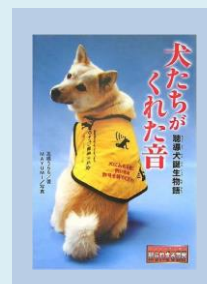
『犬たちがくれた音～聴導犬誕生物語』

高橋 うらら／著 金の星社 (1,300円＋税)

もうどうけん
盲導犬をご存じですか？では、ちょうどうけん
聴導犬は？ 日本ではあまり知られていない聴導犬。聴導犬とは、耳の不自由な人に必要な音を伝えてくれる犬のことです。インターホンや非常ベル等、さまざまな音を聞き分けて知らせてくれます。

日本で認定されている聴導犬の数は、64頭(2016年4月現在)で高知県は0頭ですが、困っているろう者の為にも1頭でも多くの聴導犬が増えることを願います。

(企画啓発課 佐伯)



人権啓発パネル集約版 Vol.2 が出来ました



これまで、当センターでは、さまざまな人権に関する15種類のパネルを作成してきました。

今回のリーフレットは、2014年以降に作成した5種類のパネルについて1冊にまとめたものです。

もくじ

- 犯罪被害者等の人権・・・・・・・・・・1P
(犯罪被害者等)〈2014年発行〉
- 高知県人権施策基本方針・・・・・・・・9P
(人権全般)〈2014年発行〉
- 災害と人権・・・・・・・・・・17P
(災害と人権)〈2014年発行〉
- 断固拒否せしめ同和行為・・・・・・・・25P
(同和行為)〈2014年発行〉
- あなたは大丈夫？考えよう！
インターネットと人権・・・・・・・・35P
(中高生ネットトラブル)〈2016年発行〉

※ご希望の方には送付致しますので、ご連絡下さい。



研修講師の紹介

私たちがおうかがいします

☆ 山本 淳一（やまもと じゅんいち）



2014年3月末、南国市内の小学校を退職し、同年4月から研修啓発課長として勤務しています。皆様からの講師派遣依頼の「窓口」担当として調整にあたっています。

時には、研修講師として研修の「お勉強」をさせていただくことも

あります。

人権課題解決には、人権教育と人権啓発の役割がとても大切です。積極的な講師派遣のご依頼をお待ちしています！

☆ 中西 弘久（なかにし ひろひさ）



私立学校の人権教育の推進を図るための事業支援や助言などを職務としています。具体的には人権教育に関する職員研修、学校訪問、情報の提供等ですが、特に研修では学校現場のニーズに沿った研修内容や講師選定を心がけています。

☆ 川崎 二三雄（かわさき ふみお）



高知市内の小学校や高知県教育委員会事務局などに勤務してきました。さまざまな人権課題に関心を持っています。特に、現在人類が経験したことの無い超高齢社会をわが国が迎えています。その判断の物差しになるものが人権意識だと思います。組織、企業、社会で人権意識の高まりがますます求められている昨今です。これからの高知県、日本、世界について一緒に考えていければと思います。

☆ 藤本 昌司（ふじもと しょうじ）



高知市内の小学校で同和教育と出会うことによって、自分自身の進む方向を確立することができました。

高知県や高知市教育委員会事務局勤務中は、同和教育を人権教育に再構築する仕事に

関わることができ、多くのことを学ぶことができました。人権について学ぶことは、自分自身を豊かにしてくれます。今後も自分にできることを努力していきたいと思います。

☆ 池本 正明（いけもと まさあき）



小学校の教員を定年退職し、4月1日より研修講師として勤務させていただいております。

同和教育との出会いがこれまでの教員生活の土台となり今に至っています。このたび、研修講師としての立ち位置だけでなく、学び直しの機会と

捉え、これまでにご指導いただいた方々やこれから出会える皆様方に、少しでもお役に立てればと思っています。よろしくお願いします。

☆ 松下 睦（まつした むつみ）



県立高校の教員や教育行政職での経験を経て研修講師となりました。「ありがとうと笑顔は伝染する」をモットーに人間関係づくりやさまざまな人権課題の解決に向けて、少しでもお役に立てればと考

えています。「一生勉強、一生青春」の気持ちを忘れず、「明るく、わかりやすい学習」を目標にしています。よろしくお願いします。

Information お知らせ



事業・イベントの紹介

第43回「部落差別をなくする運動」強調旬間啓発事業

7月10日～20日は「部落差別をなくする運動」強調旬間です。

県民の皆様の同和問題に対する理解と認識を深めていただくために次の催しを行います。

- 日 時：平成28年7月12日（火）
13:00～16:00
- 会 場：県民文化ホール（オレンジ）
- 映 画：『炭鉱に生きる』★日本語字幕付き上映
- 講 演：『筑豊の炭坑と山本作兵衛の世界
～筑豊と部落問題～』

講師 あそ たつお
安蘇 龍生氏

（田川市石炭・歴史博物館館長、
（公社）福岡県人権研究所理事）

- 参加費：無料

※手話通訳・要約筆記・託児あり



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

- 図書
1人5冊以内で、期間は2週間以内です。
- ビデオ・DVD
1人2巻以内で、期間は2週間以内です。
- パネル
1人3セット以内で、期間は1カ月以内です。
※ 直接来所できない場合は送付もいたします。
（送料は利用者のご負担となります）



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員
270名（机を使用する場合は180名）
- 設備
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp>